

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

高度医療と地域医療の両立を目指す

①①⑥ 北里大学病院 (神奈川県相模原市)



「スマート・エコホスピタル」に生まれ変わった北里大学病院

「日本の細胞学の父」北里柴三郎の精神を受け継ぐ北里大学病院は1971年に開院。「患者中心の医療」「共に創りだす医療」を理念に、高度先進医療の推進と地域医療への貢献の両立を目指してきた。

老朽化のため計画された新病院の建設は、北里研究所100周年・北里大学50周年の創立記念事業の最大プロジェクトとなった。

新病院は2014年5月、旧病院駐車場敷地に開院した。地下1階、地上14階建てで、許可病床は1033床。

免震構造にするなど災害拠点病院としての機能を強化したり、最新の医療機器や情報システムを導入したりした。また、太陽熱や自然の空気の流れを生かして省エネ化、省CO²化を図る「スマート・エコホスピタル」として国土交通省に認められた。

外来患者は、吹き抜けの「けやきサロン」のカフェで待ちながら、案内表示モニターを見ることができる。けやきサロンの周辺には大きな絵画が掲げられ、プロによるピアノコンサートが時々行われる。まるでイベントスペースのような。健康情報館として参考文献やパソコンで自らの病気を調べる



開放的な「けやきサロン」



デパートのように4本のエスカレーターが並列している



見晴らしの良い中庭



高級ホテルを思わせる特別個室病棟のラウンジ



物語性のある絵が壁に描かれた小児総合外来の診察室



集学的がん診療センターのリクライニングチェアは上方から空調の風が直接当たらない配置になっている

こともできる。

隣接する1号館も改装し、同12月に開院した。1階の内科外来のあった場所は駅ナカを思わせる「kitasatoモール」に生まれ変わった。ウィッグ(かつら)などの医療材料専門店「メディカル・ブティック」があるのが目を引く。旧病院は2015年1月から解体工事が始まり、跡地は第2外来駐車場となる。

新病院は特定機能病院として高度先進医療をさらに推進するため、がん診療、周産母子成育医療、救命救急・災害医療の3分野を重点的に整備する

ことにし、3分野に対応したセンターをそれぞれ設けた。

また、地域医療連携の要となる「トータルサポートセンター」を病院の真ん中に設け、患者の入院前から退院後までを総合的に支援するとともに、地域医療機関との窓口になっている。

「医療の質・安全推進室」や医療人材を養成する「研修統括部」も設けており、宇田川孝男・経営企画室・新病院事業室次長は「教育・研究・医療の充実のためハード・ソフトの両面で整備を進めてきました」と話す。